



発行・京都障害者スポーツ振興会
題字 芝田 徳造

2009年の年頭に当たって

京都障害者スポーツ振興会 会長

川面 幸男

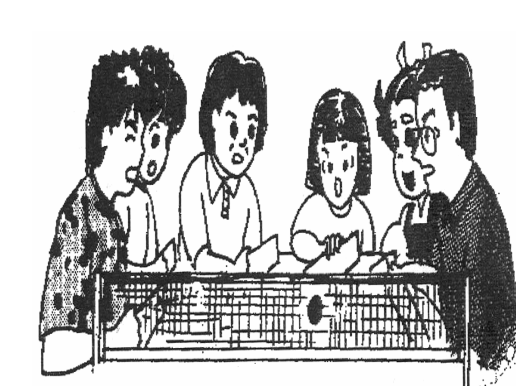
新年あけましておめでとござ
います。本年も皆様方の御健康と御多幸
を心からお祈り申し上げます。振
興会は今年も昨年にもまして充実
した活動を繰り広げ、障害者スポ
ーツの普及発展に貢献したいと思
っております。
昨年を振り返りますと、なんと
言っても北京パラリンピックの開
催が特筆されます。日本からは1
62名の選手が参加しましたが、江
京都から5名の選手（寒川、江
島、北村、中山、金田）が晴れの
代表に選ばれ、それぞれ活躍をし
て元気に帰ってこられました。北
京パラリンピックの報告を読みま
すと、中国のパラリンピックの受
け入れ体制はすばらしく、生活環
境、輸送、競技運営、観客数など
障害に由来の不自由さを感じさせな
いだけではありません。いつも満員の観
客の中で競技でき、いつも最高の観
客の応援を受け、いつも最高の観
望の目を浴び、競い合っていました。
京都からは選手に帯同して監督や
コーチとして4名が参加されてま
した。これらの選手、監督、コーチ
が北京パラリンピックの参加経験
を生かし、今後京都の障害者スポ
ーツに大きな力となることと確信
をしています。

パラリンピックをめぐる世界の
情勢をみますと、メダルの獲得競
争は熾烈で、各国は国を挙げてメ
ダルの獲得に力を入れている状態
です。また世界の競技力の向上は、
日本の予想をはるかに上回る状況
だったと報告されています。日本
の選手の競技環境は、障害者の競
技別団体のほとんどが個人の自宅
が事務所であり、パラリンピック
に参加した選手のアンケートをみ
ても、苦勞をしていることへの回
答で、
費用がかかる 82.9%
練習場所がない 42.8%
仕事に支障が出る 41.2%
練習場所に通うのが大変 35.5%
競技の時間などが取りにくい 31.6%

という順でした。これを見ると
日本の障害者スポーツの基盤整備
が急がれ、これまでのように選手
の自助努力のみではやっていけな
くなってきたようです。オリンピック
くでもわかるように、すばらしい
高度なパフォーマンスを見て子供
達はスポーツに憧れ、大人は人間
のすばらしさを実感するものです。
障害者アスリートへの社会的役割
をもっと訴え競技環境の改善を期

待するものです。
これまで、振興会は競技力の高
いスポーツを発展させるため、高
い障害者スポーツ選手が競技力の高
野を伸ばすこと、その普及のため
には障害者スポーツを普及し、野
を拡大すること、アスリート層の
養成にとつて重要なことです。そ
の意味では昨年うれしいうれしい
ことになっています。毎月開催して
加者が増加したことです。障害者
スポーツのつどいは昭和46年から
開催して以来、431回連続し
て開催されています。平成20年
の初めから、障害者スポーツの
つどい「が」開催されていること
さらにも多くの人が参加している
障害児に、障害者スポーツのつど
いのピラが配られました。結果、
4月の参加者は199名に増えて
つどいの活気が戻り、参加者が増
えるとスタツフも増加しました。
新しいスタツフも増加しました。

と、途中障害者の普及を考える
とも比較的小さく、障害発生は原
因疾患は労災や交通事故から生
習慣病に変わっており、年令も高
齢になりやすいです。ここでは高
呼びかけが1名でも参加者が増え
ることは大変貴重な出来事です。
問題は子供達のスポーツレベルの
害のある子供達が高いレベルの
成長してこないと必要障害が
あるとQOLの向上に必要障害が
あるとQOLの向上に必要障害が
今一回つどい「のスタツフが子
達に呼びかけた、スポーツは楽し
いと全身のメッセーは、私達振興
会全体のものとして教育的に考
ねばなりませんが、障害児のスポ
ツ環境を考慮するときは、このよ
うに



今年もまた障害を忘れる程スポ
ーツにばかり、楽しいスポーツ
をさらに多くの障害者に発信し
しよ。1月1日には11月よ
り開催している障害者スポーツ指
導者研修会の終講式を迎えます。
新しいボランティア18人が大々
に力になるものと期待をいた
ます。

スポーツの楽しさを届けること
必要です。振興会は是非、誰か
「さ」を届けるのか、積極的に
すべき役割を自覚し、今一度、努
すする必要性を痛感するもので
が20周年の記念大会を迎えます。
この間全国にも車いすハンドボ
ールを普及させることができて
います。ハンドボールが、ハンド
に多く、障害者にも人気が高ま
いく活動の障害者にも人気が高
ので、活動を調歩みだしたいも
都卓球大会の開催は、昨年分県
として開催された身障体の公開
の会場です。念願の全国組織の
が大会の開催へ向けて歩みが一
り、その大いに期待されます。

行事予定	1月	13 (火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園
		18 (日)	208回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール
			ゆうあいボウリング大会	アル・プラザ亀岡
		25 (日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽
第6回京都障害者チャンピオン卓球大会	京都市障害者スポーツセンター			

京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2008年12月14日に一部更新)

来月の
つどいは
2 / 8
第2日曜日

スポ振ルネサンス

「心でつなぐ活動を！」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

前回の歴史認識を学び直して正しく伝え拡げていくって欲しいということのつづきです。

次に、京都で生まれたゲームの歴史をふたつ紹介しましょう。

ひとつめの車いすハンドボールは、京都障害者スポーツ振興会が昭和46年から京都府立体育館との共催で行って来た「障害者スポーツのつどい」から誕生しました。

車いすによるスポーツは多岐にわたり、それぞれの人に合った種目に親しんでいます。昭和年代、車いす使用者のボールゲームといえは車いすバスケットボール（今でもそうですが）といわれ、医学的リハビリの一貫として取り入れられたこの種目も次第にレベルアップし、また、若年化し、一部の人を除いて活動について行けなくなり、ドロップアウト

する人や参加出来ない人も出て来ていました。

そういった中、車いすを常用する私の、障害のある人々のスポーツ活動の支援に携わる者として、車いすバスケットのレベルに達しない車いす常用者（電動車いすを含む）にも集団で行うボールゲームの楽しさ、おもしろさを味わってもらいたいという気持ちと、また、私自身、自分の過去を振り返ってみても、集団で行うボールゲームをあまり行ったこと（行えるレベルではなかった）がなかったの、「何か行ってみよう」という気持ちもあり、原案を考え、誕生したのが、この車いすハンドボールです。

そして、振興会スタッフのバックアップのもと取り組まれて、指導者だけでなく、障害のある人々も直接参加して改善するなど、多くの人々の努力の積み重ねで育まれ、「車いすハンドボール大会」に発展して、今年で「回を迎え、今日に至っています。」

ふたつめの障害者シンクロナイズドスイミングは、1982年6月6日に

府立伏見港公園体育館のオープンとともに、共催で始めた「障害者水泳教室」が始まりました。このうちの水泳教室を終えた障害のある人々の中から「もっと泳げるようになりたい」「泳ぐ機会を持ちたい」との声があがりOB会が出来たのがきっかけで、指導者として、当時、府立桃山養護学校の森田教諭の奥さんで学生時代にシンクロナイズドスイミング協会会長）を迎えたのが始まりで、水泳の練習をしているうちに1983年の「第1回全京都障害者総合スポーツ大会水泳大会の部」で初めて発表することになったのがわかり、同年にはチームができて毎年同大会で発表を重ねてきました。そして、全国に知られるチャンスが来たのが1988年の「第1回全国身体障害者スポーツ大会」の水泳競技の開始式での発表でした。

その後、徐々に京都での活動が知られるとともに、水中では自由に動き回れ、自己表現ができるということに、障害のある人達の

「やってみよう」という気持ちをかきたたせるとともに、障害のない人々にも単なる介助者としてではなく、同じ土俵でシンクロナイズドスイミングの良きパートナーとして参画できるということなどに共感を得て拡がりを見せて、1992年5月の全国を視野において初めての「障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバル」の開催や現在の「日本障害者シンクロナイズドスイミング協会」の設立につながり、今日に至っています。

前回と今回の2回に分けて紹介をした「障害者スポーツのつどい」と「全国障害者スポーツ大会」などで紹介をされている3つの種目は、いずれも京都が誇るものです。

何事を継承していくにも、そのことの創設に関わられた人の思い入れや意味などを深く理解するとともに大切し、正しく伝え拡げていくって欲しいものです。

（編集現場から・・・）
「つどい」は振興会のホームページでもごらん頂けます。また、毎号ボランティアさんの協力を得て、点字版も作成しています。点字版は関係施設・学校や団体に送っていますが、個人で定期的に読まれる方がおられましたら郵送しますので、振興会まで連絡下さい。

（森津）

現場の活動に全く参加していないのに、編集に関わらせていただいています。様々な人の思いに触れる事が、自分自身を見つめなおすきっかけとなっています。ボランティアの原点を忘れずに頑張りたいと思います。

（久門）

時代の流行にそのまま流されることに、この年になつて、一抹の不安を感じています。昨今流行っているセリフではありませんが、変わって良いことありませんが、絶対に守っていかなくてはならないことでもあります。それって、何でしょう？ 答えは簡単です。これからも、周囲に流されず考えていきたいものです。

（北永）